

“個”が活きる経営で10年先も必要とされる魅力ある企業になる

ソリューションアワード2016

3月2日にソリューションアワード2016を開催させていただきました。当日は多くのCBM オーナーズクラブ会員様にもお越しいただき、誠にありがとうございました。当日は晴天。200名以上のお客様にお越しいただき、ソリューションとしても10周年の節目のイベントにふさわしい時間になりました。ぜひ、お越しいただいた方も今回はお越しいただけなかった方も、このソリューションアワード2016のダイジェスト版にて、当日の内容と様子を感じ取っていただけたらと思います。

十勝バス株式会社 代表取締役社長 野村文吾氏

『社員を愛する』野村社長のご講演で、この言葉が印象に残っておられる方も多いのではないのでしょうか？会社を継ぐことを決断し、いざ就任してみると、わからないことだらけ。先代である父親は何を聞いても教えてくれない。会社は、このままいけば倒産しそうなほどに追い詰まっている。それでも社員は自分の言った通りには動いてくれない。なんとかしなければ・・・という想いで会社を引き継いだ野村社長も、次第に「あいつらは全然動かない」「あいつらが悪いんだ」と社外では社員の愚痴をこぼすようになっていたといいます。そんなときにある先輩に言われたことは、「社員を愛せ」ということでした。当時の野村社長には、簡単には信じられない言葉でしたが、その先輩は野村社長が心配だからという一心で土下座までして「社員を愛せ」ということを訴えたといいます。そして、『社員を愛する』ことを心に決めた野村社長は、社員の前で「今日から私はあなたたちを愛します。」という宣言をします。

愛するとは？

『愛する』とはどういうことか？それは、『受容力を上げること』だと野村社長は言います。愛すると決めて、相手を受け止めようとしていると、次第に相手のいいところばかりが見えて、悪いところは気にならなくなってくる。すると、相手に合った仕事が終わってきて、強みを活かして仕事を任せられるようになってくるというのが野村社長の経験談です。



”誇り”は持たせるものではなく、思い出すもの

「人は必ず“誇り”を持っている」と言う野村社長。「もし“誇り”にモヤがかかってわからなくなってしまうことがあったとしても、個人の持つ能力や個性を仕事で活かしていくことで必ず思い出すことができる」と言います。

社長が、『社員を愛する』と決めたところから始まった改革は、とうとう40年赤字だった会社を黒字に変えるほどに大きな変化をもたらしました。社員から声が上がリ、社員が会社のために考え、動き出すようになった十勝バス。ソリューションも10年先も必要とされる個が活きる魅力ある組織づくりを目指しておりますが、その原点となるのは、チームのトップである社長の『社員を愛する』という心なのかもしれません。

野村社長、素晴らしいご講演、ありがとうございました。



株式会社ソリューション
代表取締役 飯田元輔

本日は、ご参加いただきましてありがとうございました。僕からは、10年先も必要とされる魅力ある企業になるために大切なことは何かということについてお話できればと思います。

最近、いまある仕事の半分くらいはロボットに代わられて無くなっていくという話を聞きます。我々はいま岐路に立っているわけです。この先無くなっていくのか、勝ち残っていくのか。

私は『無くなる仕事』というのは、実は仕事のくくりではないのではないかと考えます。つまり、例えば、無くなるドライバーの方もいれば無くならないドライバーの方もいる。仕事（業務内容）というよりも、心を遣い、育てていけるような仕事ができるかどうか、今後勝ち残っていけるかどうかにつながってくるのではないかと思います。

ご登壇いただいたお客様2社様は、“信じる”ということを言われていましたが、心ある組織になるためには、信頼で繋がる組織をつくっていくことが重要です。

永和工芸株式会社

「社員みんなが自分で考えて動けるようになってほしい」それが松本社長の想いでした。

SOLと出会ったころは、何かあれば現場の社員が社長に指示をもらいにくる状態。「このままでは、会社が成長していかない」と社長は、まず社員が自分で『考える』基準となる理念をつくることを決意。そして、理念構築の後には、幹部の方お2人とプロジェクトを立ち上げました。

変化のキーワードは、決断・信頼・未来

社長が変わることを決断し、誰よりも社員を信頼し、未来を描きだしたことで会社全体がどんどん変化されている永和工芸様。『勇気とは、信じるとは、どういうことなのか』。ここから逃げずに、社長と幹部のお2人が、ご自身と相手に向き合ってこられたからこそ、いま会社に良い変化が起こってきているのでしょう。

保川建設株式会社

『僕がNo2やります』という幹部の村上さんの言葉を聞いたときは、本当に嬉しかったです。」というお話をしてくださった保川社長は、“信じる”ということ行動にしてこられた社長です。理念をつくり、組織を変えていくことを決意した当初、幹部候補を考える中で、SOLが選出させていただいたのが村上さんでした。最初、社長は「え！」という反応をされていましたが、それでも村上さんを信じようとして決断されます。

その後、社長は、村上さんを研修に行かせたり、飲みにも誘ったり、声をかけたり、そして待つということをしたりして、何があっても“信じる”ということ行動に変え続けてこられました。

その想いは、村上さんにも伝わり、「僕がNo2やります」ということを自ら宣言されるに至りました。

「No2として負荷がかかっている村上のほっとできる場所をつくり

「一年前から今までに一番変わったことは、メンバーの実行力です。」という松本社長のお言葉は、非常に印象的で、幹部の徳谷さん、川口さんそれぞれのご発表は、社長の言葉を裏づけるような力強いものでした。

『会社が強くなっていく』ということを感じさせてくださる永和工芸様。これからの更なる変化が楽しみです。



たい」と村上さんを支える二宮さん。社長と幹部のお2人がそれぞれ協力して理念を実現していくために力を出し合っておられます。

この4月からは新卒の2名様が入社された保川建設様。ここから更なる成長をされていかれることでしょう。



そして、信頼で繋がる組織づくりに欠かせないのが、直接のコミュニケーション（対話）です。我々は、何を指し何のために仕事をするのか、そこをじっくりお互いに話合っていたきたいと思っています。

それをすることで、だんだんと互いに納得が生まれ、協力しようという意識が芽生え、組織につながりが生まれていきます。

時間はかかります。時間はかかりますが、ぜひ、10年先も必要とされる魅力ある企業になっていくためにも、この直接のコミュニケーションを大切にいただき、信頼で結ばれる心ある企業になっていっていただきたいと思っています。

